特定非営利活動法人　九州大学こころとそだちの相談室

第32号

発行日　2017／8／5

こだち　News

巻頭言

目次

青木省三先生特別講演会のご報告　2

カウンセリングルーム「こだち」ご案内　3

「ころ研ABC～基礎から学ぶロールシャッハ研修会」のご報告　3

掲示板　4

平成29年度の事務局

事務局の体制は以下の通りです。

理事長：
　黒木俊秀
顧問：
　田嶌誠一
　野島一彦
専務理事：
　金子周平
心理臨床部長：
　山口雄介
事務局員：
　香野有咲
　髙橋大樹
　牧山翔子
　栁　裕哉
　山室香理
準事務局員：
　饒田紗世
　（五十音順）

面接室の内と外

川崎医科大学精神科学教室
青木　省三

一対一という面接場面では、発達障害的な特性が分からないクライエントがいる。初回面接の出会った瞬間に、その表情や姿勢、治療者の言葉との嚙み合わなさなどから、「発達障害？」という印象が浮かぶことがあるが、面接を重ねるうちにその印象は消え、言葉を介した面接が進んでいくように感じる、などである。だが、思わぬことが起こる。私のクライエントを臨時診察した医師に、「昨日、先生が診ているアスペルガー症候群の〇〇さんが、調子が悪いとやって来られました」と言われて驚くことがある。私が「アスペルガー症候群？」と尋ねると、「△△、××のことで困っておられるようですね」と発達障害的な特性について話し、それに気づいていなかった自分に愕然とすることがある。

治療者は自然な会話が進んでいくように言葉を選ぶものだし、面接のスタイルは定型化・パターン化しやすいところもあるので、クライエントは治療者の言葉が予想できるようになる。実際、毎回、面接が進んでいるように感じられる場合でも、治療者の言葉は少しずつ予想できるようになっていることが多い。それらが面接に対する不安や緊張を和らげ、発達障害らしさは目立たなくなりやすい。それは面接を通して、治療者への信頼が形作られているということでもある。面接が進むと、治療的には信頼関係が深まるが、診断的には分からなくなるということが起こるのである。

留意しておきたいのは、面接での治療とクライエントの関係が深まることと、面接室外でのクライエントの「社会適応」の状態は異なることである。換言すると、面接室では生きやすくなるが、面接室外の生きづらさは変わらないということが起こるのである。だが、そうなってしまったのでは面接の価値がない。面接はクライエントが社会での生きやすくなることに、どこかで繋がる必要がある。ではどうしたらいいか。面接室の中では、日常生活の話題も出てくる。まずは日常生活のエピソードについてその意味を考えたい。そして面接室外の様子、たとえば待合室での様子や待合室を出て歩いて帰る姿、家族の一言なども、大切となる。例えば、予約の時間を巡っての些細なトラブルや、緊急な予定の変更などが、不安と緊張を高め、発達特徴を際立たせることも少なくない。面接室から、日常生活の質を少しでもよくするような支援を行いたいと思う。面接と生活は切り離されたものではなく、どこかで繋がる必要があると思うのである。

第十一回定時総会特別企画
「青木省三先生　特別講演会」のご報告

2017年5月28日（日）13時～14時30分に川崎医科大学精神科学教室教授の青木省三先生をお招きして、「特定非営利活動法人九州大学こころとそだちの相談室　第十一回定時総会特別企画」として特別講演会を開催いたしました。当日はおよそ150名の方にご来場いただき、大変盛況のうちに終える事ができました。ご来場の皆様に厚く御礼申し上げます。簡単ではございますが、講演会の模様をご報告いたします。

特別講演会のタイトルは「発達障害をもつ青年・成人への心理療法を考える」でした。近年は、様々な臨床現場で発達障害を有する方への理解と対応が注目を集めており、メディアなどでもよく取り上げられるようになってきています。そのため、参加者の皆様にとっては関心度の高いテーマだったのではないでしょうか。初めに、「成人の発達障害の特徴」についてのお話があり、中でも自閉スペクトラム症（ASD）が取り上げられました。ASDのケースの中には、思春期以降にASD傾向が顕在化してくるものがあり、対人関係がうまく持てないまま「独学」や「我流」で対人関係を身につけておられて、うまくいかずに困っている場合があるとのことでした。対人関係のうまくいかなさを抱えて苦労しておられるASDの方ですが、診察という定型化・パターン化された会話においては安心することができ、ASDの特徴はあまり目立たないそうです。発達障害傾向に気づくには、面接場面だけでなく日常の生活場面の情報が必要であるという基本的ですが重要な視点についてお話してくださいました。

次に、青木先生がご担当された事例のご紹介を交えながら、発達障害を有する青年・成人への具体的な支援の在り方についてお話いただきました。青木先生がお一人お一人の患者さんについて丁寧にお話をしてくださり、青木先生と患者さんの間に流れる穏やかな雰囲気が伝わってくるように感じられました。発達障害を有する方と「誤解のないコミュニケーションを心がけること」や「接点の少ない関係を楽しむこと」など、示唆に富んだお言葉をいただきました。

最後に、フロアとの質疑応答があり、特別講演会は幕を閉じました。参加者のご感想には、「お言葉の一つ一つが心の中にすっと入っていきました。今回得られた視点を活かしていきたいと思いました」「とても分かりやすく、発達障害をもつ方への臨床を改めて丁寧に考えることができました」といったものがあり、皆様にご満足していただけたようでした。

当法人設立十一周年記念

「森岡　正芳 先生　公開スーパービジョン」

日　時　2018年1月28日（日）14:00～16:30
会　場　九州大学西新プラザ　大会議室（福岡市早良区西新2-16-23）
講　師　森岡正芳先生（立命館大学総合心理学部　教授）
対　象　臨床心理士（受験資格者を含む）、医師、コメディカルスタッフ、
　　臨床心理学を学ぶ大学院生
定　員　200名
参加費　3000円

申込み　会員優先締切 10月29日（金）非会員受付期間 11月1日（水）～12月15日（金）

カウンセリングルーム「こだち」ご案内

当法人は設立以来「心理臨床サービス事業」「研修事業」「研究事業」を3つの軸として掲げてきました。これまでの11年で多種多様な活動を展開して参りましたが、その基本であり主軸となるのが、心理臨床サービス事業のうち、個別の心理面接をご提供する「カウンセリングルーム『こだち』」です。お子さまから学生、社会人、ご年配の方まで、幅広くご利用いただいております。

こだち面接室の写真

九州大学大学院出身の臨床心理士を中心に発足した当法人には、現在専従相談員4名、登録相談員38名、事務局員6名（いずれも臨床心理士資格を保有）が所属しております。学派や研究室を超えて盛んに交流してきた歴史の中で培われた臨床の知恵と技術を多くの方々の生活に役立てるべく、日々、模索しています。

職場やご家庭などでの人間関係について、これまでに受けてきた心のダメージについて、お子さまの行動や発達、学習について、治療中の病気についてなど、多岐にわたるご相談をお受けしております。営利を目的とせず、出来る限りみなさまの手に届くカウンセリングルームとして展開しております。

初回面接　（90分）：6,000円
2回目以降　個人面接　（50分）：4,000円
並行面接*（50分）：6,000円
（*保護者の方とお子さまなど）

まずは、お電話（092-832-1345）にてお問い合わせください。

ころ研ABC～基礎から学ぶロールシャッハ～研修会のご報告

6月17日には、当法人主催の研修会「ころ研ABC～基礎から学ぶロールシャッハ～」を開催いたしました。これまでにも、ロールシャッハ法を学ぶ機会としては、設立初期から続いている「こだちロールシャッハ研修会」（通称「ころ研」）があり、当法人理事の吉岡和子先生を中心に高度で密な研鑽の機会を設けてきました。その一方で、大学院を出て以来、ロールシャッハ法と縁がなく、基礎的な部分から学びたいという声が聞かれるようになりました。

そこで昨年度から発足したのが、本当に基礎の基礎、「ABC」から学ぶつもりの研修会、「ころ研ABC」です。講師には、引き続き舩津文香先生（九州大学基幹教育院）をお招きしました。

「アセスメント」は単に検査を取ってマニュアルに従って点数を計算し、傾向を書き出すだけの作業ではなく、対象の方と出会い、困っていることをみつめ、それを取り扱えるようになるのに役立つ手段として見いだされるものです。知能検査でも「IQが○だから△程度の～」と機械的に扱うべきものではありません。ロールシャッハ法では、10枚の図版を通しての1対1のやり取りの中で見えてくる生き方を、活き活きと浮き出させます。スコアリングの具体的な手法についてもご紹介いただきましたが、ただそのやり方の知識を得ることよりも、寧ろ、なぜその記号がその意味を象徴できるのか、背景にある理論の枠組みについて、とても扱いやすい形でご紹介いただきました。また、アセスメントは決して断定的・固定的なものではなく、流れて変わりゆく生き方の「今、ここ」を取り出し、その可能性について信じ応援するための、2人の共同作業なのだ、と感じられました。今回は名大法を基にした内容でしたが、方式を問わず、人と向き合う姿勢として、あらゆる臨床場面に問われる知恵を感じられたように思います。

受講者の方々からは、「長くロールシャッハの機会から離れていたため、改めて基本の確認ができました」「検査を取ることやスコアリングで精一杯でしたが、心理テスト全般も含め本質的な部分や面白さを知ることができ、改めて詳しく学びたいと思いました」といった声が寄せられました。はじめの「ABC」から、次なる臨床の現場への足掛かりとして、充実した時間となったことと思います。

掲示板　こだちよりお知らせ

フリースペース事業「ここりーと」のご案内

子どもたちの居場所、隠れ家のひとつとなれるように、という思いを込めて開設された「ここりーと」。
ここりーとでは、無理をせず、他愛もない話をしたり、遊んだり、うたた寝をしたり…
好きなことをして、自由に過ごせる空間を大切にしています。
お家でも学校でもない、そんな場所でのひととき。
「元気になることが大事」。それがわたしたちの姿勢です。
現在は、ここりーとを巣立っていた子どもたちも増え、少人数の活動となっておりますので、
初めての場や集団に対して不安や緊張があるお子さんにも過ごしやすい場となっています。

【活動日時】毎週金曜日（祝祭日を除く）の13時から16時
【対象者】10歳から20歳まで
【ご利用料金】一律　月5,000円
ご要望に応じて、上記以外の曜日や対象年齢外の方のご参加も検討いたします

当法人からみなさまへ　入会のお願い

当法人では、地域に貢献できる臨床心理事業、および臨床心理士の質の向上のための研修事業に取り組んで参りました。みなさまのご支援のおかげをもちまして、これまでの11年で着実に実績を重ねてきました。わたしたち一同、これからに向かって、一層充実した活動をしていく所存です。

しかし、設立当初からの財政難は年を追うごとに厳しさを増し、質の高い臨床心理事業・研修事業を今後維持することができるかどうか、瀬戸際に立たされています。心理援助の理念に従い、営利を目的としないサービスを提供しておりますので、収入は芳しいものではありません。

当法人の運営資金の根幹は、みなさまからの会費収入で賄われております。会員が増えれば、それだけ充実した事業によって地域のみなさまや臨床心理士の方々に貢献することができます。

このお願いをお読みの方の中には、過去に会員であった方や、ご職場などで回覧されている方もいらっしゃるかと思います。ぜひ、当法人会員となってくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

理事長　黒木俊秀

正会員（一口5,000円）臨床心理士有資格者　　学生会員（一口1,000円）学部生・大学院修士課程
準会員（一口5,000円）臨床心理士資格試験受験資格保有者
賛助会員（個人：一口5,000、団体：一口10,000円）

編集後記

気温や降水量の「例年」は、いつのことを指すのでしょう。去年の「例年」と今年の「例年」は同じでしょうか。「例年」も移ろうのでしょうか。絶え間なく流れてゆく時間と生活を、どのように切り取ろう。（柳）

特定非営利活動法人　九州大学こころとそだちの相談室

〒814-0002
福岡市早良区西新2-16-23　九州大学西新プラザ内　産学交流棟

TEL　092-832-1345　　FAX　092-832-1346
HP　http://kodachi.or.jp/